

わかる! Box Shield

DX時代に必須のコンテンツセキュリティ
～最も重要で最も効率的なセキュリティ対策～



セキュリティ対策の見直しが必須

働き方が大きく変わり、あらゆる場所から当たり前に業務を行うのがDX時代です。一方、働き方と表裏一体となるセキュリティに目を向けると、内部犯行やうっかりミスは後を絶たず、何年にも渡ってセキュリティ事故や情報漏えいの主要な原因になっています。また、ランサムウェアなどマルウェアによる攻撃は、DXが進むほど、働き方が変わるほどに増加・高度化していきます。特に中小企業ではどこから手を付ければ良いかわからない、コスト効果が見えないといった悩みも持っており、ビジネスに大きく影響するサプライチェーンを悪用した攻撃を防ぐためにも、あらためてセキュリティへの注目と対策の見直しが求められます。DXや働き方改革、コロナ禍で環境が大きく変わった今こそ、何をすべきかをしっかり理解し、対策を行う時なのです。

情報セキュリティ10大脅威 2022

NEW：初めてランクインした脅威

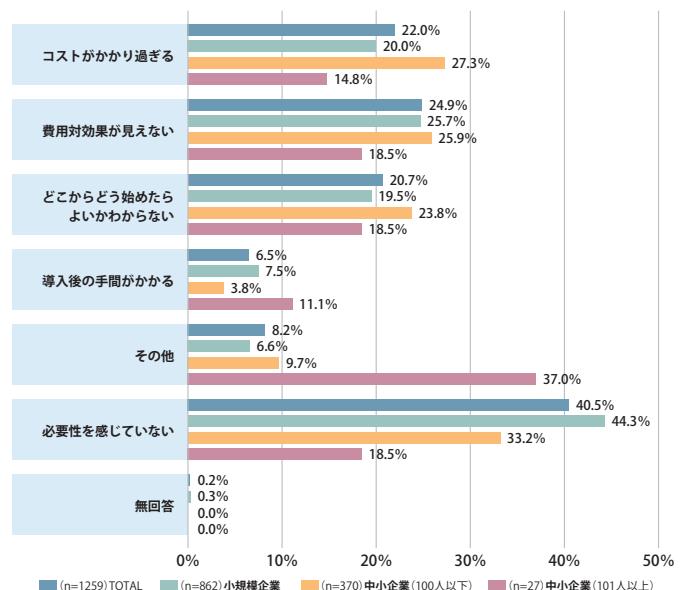
順位	個人	昨年順位	組織	昨年順位
1位	フィッシングによる個人情報等の詐取	2位	ランサムウェアによる被害	1位
2位	ネット上の誹謗・中傷・デマ	3位	標的型攻撃による機密情報の窃取	2位
3位	メールやSMS等を使った脅迫・詐欺の手口による金銭要求	4位	サプライチェーンの弱点を悪用した攻撃	4位
4位	クレジットカード情報の不正利用	5位	テレワーク等のニューノーマルな働き方を狙った攻撃	3位
5位	スマホ決済の不正利用	1位	内部不正による情報漏えい	6位
6位	偽警告によるインターネット詐欺	8位	脆弱性対策情報の公開に伴う悪用増加	10位
7位	不正アプリによるスマートフォン利用者への被害	9位	修正プログラムの公開前を狙う攻撃（ゼロデイ攻撃）	NEW
8位	インターネット上のサービスからの個人情報の窃取	7位	ビジネスメール詐欺による金銭被害	5位
9位	インターネットバンキングの不正利用	6位	予期せぬIT基盤の障害に伴う業務停止	7位
10位	インターネット上のサービスへの不正ログイン	10位	不注意による情報漏えい等の被害	9位

2022年8月 情報処理推進機構「情報セキュリティ10大脅威」
<https://www.ipa.go.jp/security/vuln/10threats2022.html>

何を考えるべきか？

従来は、社内ネットワークという社内と社外を隔てる境界を守ることで、セキュリティを担保していました。積極的にクラウドサービスが利用されるようになり境界が曖昧になった昨今では、ゼロトラストという新しいセキュリティの考え方の下、社内か社外に関わらずセキュリティを担保できるよう進化しています。しかし、それでも正当なアクセス権限を持つ者の内部犯行やうっかりミスは防げません。ゼロトラストの延長線上にあり、うっかりミスや怪しい操作を検知して防ぐ対策を行い、企業や組織の情報資産（＝コンテンツ）を強固に守ることが必要とされます。

情報セキュリティ対策投資を行わなかった理由（企業規模別）



2022年5月 情報処理推進機構「2021年度 中小企業における情報セキュリティ対策に関する実態調査」
<https://www.ipa.go.jp/security/fy2021/reports/sme/index.html>

何を守るべきか？

ランサムウェアも内部犯行も、システムではなく情報そのもの、つまり、データやコンテンツを持ち出したり人質にします。DX時代に改めて認識すべきことは、最も価値のある企業資産の1つがデータやコンテンツであり、守るべきものはビジネスに最も影響のあるコンテンツであるということです。また、セキュリティ対策の最重要ポイントは、セキュリティの解像度を1つ1つのファイルレベルまで上げた「コンテンツセキュリティ」により情報資産を守り、万が一被害を受けた際にも影響を最小限に抑え、ビジネスを継続させられるかということなのです。



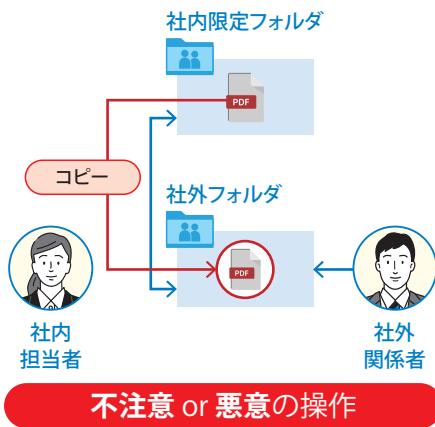
Box Shield 2つの大きなコンテンツセキュリティ機能

情報漏えいのパターンとは

大きく3つに分類

公開フォルダへのコピー・移動

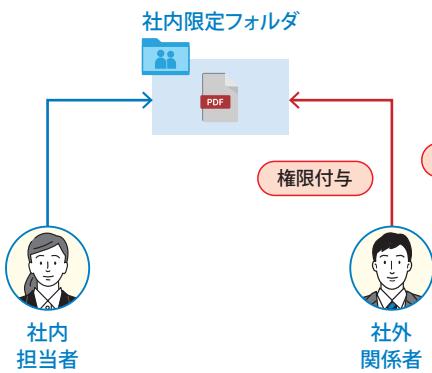
社内のみ共有可能のフォルダにあったコンテンツを社外共有フォルダや公開フォルダにコピーした



不注意 or 悪意の操作

外部ユーザーの招待

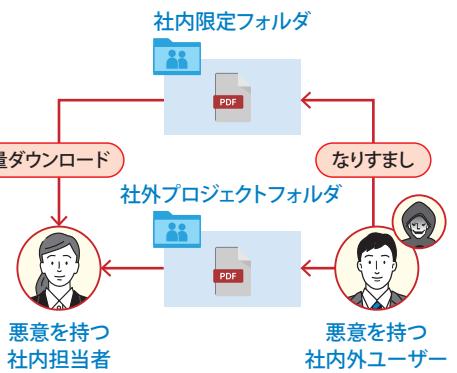
社内ユーザー限定フォルダに社外ユーザーを招待した



不注意 or 悪意の操作

想定外の利用

なりすましや悪意を持った社員による持ち出し



悪意の操作

Box Shield による対策

「スマートアクセス」と「脅威検知」2つの大きなコンテンツセキュリティ機能

スマートアクセス

コンテンツを機密度で分類し、機密度に応じた共有 / 招待の制限、表示やダウンロード、印刷の制限を行うガードレールとなります。機密度分類はラベルとしてファイルに付与し、視覚的に確認できるほか、Microsoft Information Protection (MIP) の分類を引き継ぐことができます。コンテンツの作成段階から共有、保管の段階まで一貫したアクセスポリシーを適用した運用が可能です。

うっかりミスによる誤った共有での情報漏えいを防ぎ、コンテンツを過失から守ります。

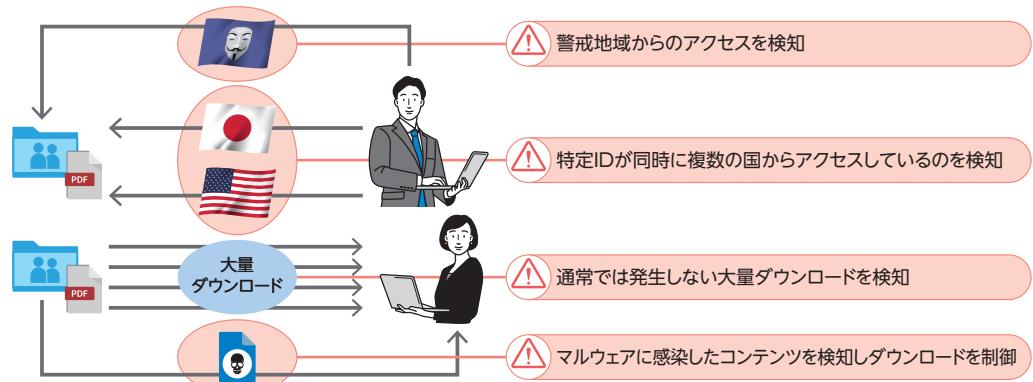
脅威検知

悪意の可能性がある操作を検知します。例えば大量ダウンロードや警戒地域からのアクセス、同一IDでの同時に異なる地域からのアクセス、マルウェア感染といった異常を検知し、一步先までセキュリティ対策を行います。Box Shieldはアップロード・ダウンロード・プレビュー・共有・コピーといったイベントごとにファイルをスキャンし、悪意あるコンテンツをほぼリアルタイムに検知します。ハッシュ関数ベースのスキャンだけではなく機械学習ベースでのスキャンを実行することで、悪意や疑わしい脅威の検知を強化しています。

万が一、Box Shieldが悪意あるコンテンツを検知したら、ローカルへのダウンロードや他のアプリケーションとの接続をブロックして拡散を防ぎます(Box上ではファイルは暗号化され、マルウェアは実行されません)。コンテンツへのアクセスにも制限をかけますが、プレビューおよびオンラインエディタでの編集など、共同作業は可能で、業務を安全に継続できます。

脅威検知の概要

スマートアクセス機能やアクセス権を通じて許可される操作に対して、さらに不審な場所や不審なセッション、異常なダウンロードの観点で分析し、想定外の操作をスピーディに検知します。



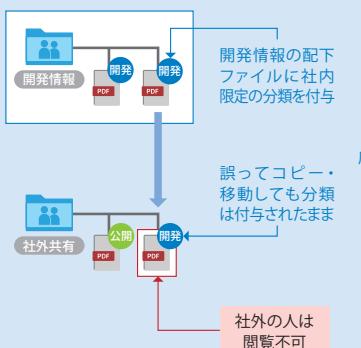
スマートアクセスで解決できること

機密情報の保存先フォルダや機密情報に該当する拡張子を、自動もしくは任意で事前に定義し分類を付与することや特定のフォルダにアップロードされると自動で機密情報として分類されフラグを付与します。その他、個人情報(PII)に相当するクレジットカード番号などの情報種別をもとに、または分類にマッピングするルールを作成して自動分類することもできます。さらに、MIPといったサードパーティ製品の持つ分類情報をインポートし、Box Shieldでも自動的に分類できます。こうして1ファイル1コンテンツにまで解像度を上げ、システムが情報漏えいのガードレールとなるセキュリティ対策を行うことで、うっかりミスにより誤ってコピーや移動させても社外に漏えいさせないよう予防することができるのです。

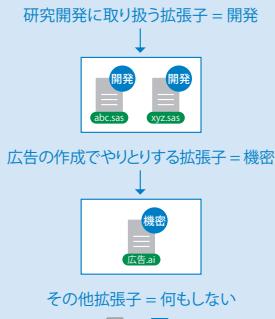
保存先フォルダと拡張子に応じた自動分類

機密情報の保存先フォルダや機密情報に該当する拡張子を事前に定義し、誤ってコピー・移動させても社外に漏えいされないよう予防する

フォルダに置いたら付与



特定の拡張子に付与



データの種類に基づく自動分類

PIIや独自の用語を自動分類

- ◎コンテンツに基づいてアップロード時にファイルを分類
- ◎10種類以上の情報識別と独自の用語やフレーズをサポート
- ◎検出されたデータの種類をセキュリティ分類にマッピングするルールを作成



まとめ

多くがデジタル化し個人に応じた便利で多様な働き方ができる一方で、セキュリティ対策は今まで以上に解像度を上げていく必要があります。ビジネスの中心には常にコンテンツがあることを鑑み、業務に欠かせないコンテンツを強固に守るセキュリティ = コンテンツセキュリティを施すことが、いま最も必要とされるセキュリティ要件です。1ファイル1フォルダレベルに解像度を上げたコンテンツセキュリティは、規模の大小を問わずあらゆる企業や組織のセキュリティ対策に効果的です。Box Shieldが提供するセキュリティ対策で、長年悩まされ続けた内部犯行やうっかりミスによる情報漏えいリスクも、近年猛威を振るうランサムウェアのリスクも、情報システム部門に大きな負荷をかけず最小化できます。

Boxとクラウドコンテンツ管理の情報サイト

Box Square

企業・組織のコンテンツやコラボレーションに関わる課題を解決する総合ポータルサイトです。働き方改革、生産性向上、DX、デジタルワークプレイス、セキュリティなどをテーマに、ブログ、お客様事例やインタビュー、各種レポートなど最新情報を届けします。

<https://www.boxsquare.jp/>



株式会社 Box Japan

〒100-0005

東京都千代田区丸の内1-8-2 鉄鋼ビルディング15階

<https://www.boxsquare.jp/>

Box導入に関するお問い合わせ

<https://www.boxsquare.jp/inquiry>

Box製品ご購入後のサポートに関するお問い合わせには

返信できませんので、予めご了承ください。

販売代理店



※このカタログに記載された会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

※このカタログに記載された情報は、2022年10月現在のものです。内容は予告なしに変更することがあります。

©2022 Box Japan カタログNo:CV1128-202210-01